

さくら ほっと NEWS

特集

▶ **消化器・一般外科のご紹介** P.2・3

お知らせ

▶ **形成外科の設置について**
▶ **不育・不妊センターのご紹介** P.4

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・ 大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・ 高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

名古屋市立大学病院

患者さんの権利等

患者さんの権利

良質の医療を受ける権利
情報を知る権利
選択の自由の権利
自己決定の権利
機密保持を得る権利

患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。
患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分にわかりやすい説明を受けることができます。
患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。
患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。
患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報には厳正に保護されます。

患者さんの責務

- 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 医療費の自己負担分は必ずお支払いください。

お願い

- 大学病院として、医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。

vol.31
2015年2月

消化器・一般外科のご紹介

消化器・一般外科では、様々な消化器疾患に対して手術を中心とした診療を行っています。一般病院では治療の難しい患者さんや、様々な病気を抱えた患者さんに対する治療、さらには緊急手術が必要な救急対応など、大学病院ならではの規模と人材とを十分に活用し、できるだけ多くの患者さんの病気を治せればという思いで日々の診療に従事しております。その中でも、患者さんの体の負担(侵襲)が少ない鏡視下手術を以前から重要視しており、胃癌や大腸癌はもちろんのこと、食道癌や肝臓・膵臓の一部の疾患に対しても鏡視下手術を導入しています。我々は、十分に安全性を考慮し、根治性も保った上で、より良い手術方法を追究しております。



消化器・一般外科部長
教授 竹山 廣光

鏡視下手術とは？

人体にはいくつかの“空間”があり、医学の領域ではこれを“腔(くう)”と表現します。胸部の空間を胸腔(きょうくう)と呼び、腹部の空間は腹腔(ふくくう)と呼びます。古くから、我々消化器外科医は胸やお腹を切り開いてこの腔に到達し、病巣を切除してきました。しかし、科学技術や機器の進歩に伴い、小さな傷から細い内視鏡を胸腔や腹腔に挿入することにより、十分な視野が得られるようになってきました。さらに、様々な“鉗子”と呼ばれる道具の発達や外科医の修練に伴って、この内視鏡映像の中での病巣切除や縫合なども、最近では十分に可能となっています。これら、内視鏡からの映像を見ながら行う手術を鏡視下手術と呼び、それぞれ胸腔で行う手術は胸腔鏡下手術、腹腔で行う手術は腹腔鏡下手術と呼ばれています。

鏡視下手術

胸腔鏡下手術

腹腔鏡下手術

上部消化管グループ

主に食道癌と胃癌の治療を担当しています。食道の手術は年間50件ほど、胃の手術は年間100件ほどを行っています。手術の質を保ちながら少しずつ鏡視下手術で出来ることを広げてきました。食道癌・胃癌の手術では、最近では鏡視下・補助下手術が多くを占めるようになってきました。



領域責任者
准教授 木村 昌弘

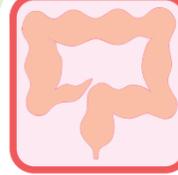
肝・胆・膵グループ

肝臓・胆道・膵臓の外科疾患は多様で、病気の原因が腫瘍であったり炎症であったり結石であったりします。診断が難しいこともあり、肝胆膵内科や放射線科などの医師と協力して診療にあたっています。膵臓癌や肝臓悪性腫瘍など、大きな開腹と広範な切除を必要とする患者さんが多い領域ではありますが、あくまで患者さんそれぞれの病状に応じた方針を検討しています。胆石はもちろんのこと、安全に実施可能であれば、膵臓や肝臓の手術も積極的に腹腔鏡下に行っています。



領域責任者
准教授 松尾 洋一

下部消化管グループ



年間200件ほどの大腸手術を行っています。そのうち大腸癌に対する手術が8割ほどを占めており、この大半を腹腔鏡下に行っています。一般病院では治療の困難な患者さんも、多数入院・転院されてきます。救急診療としての腸閉塞や穿孔(腸に穴が開いた状態)に対する緊急手術も、当科では積極的に救急受け入れ・治療を行っています。また、患者さんの病状やご希望を踏まえて、より傷が目立たない単孔式腹腔鏡手術にも取り組んでいます。



領域責任者
講師 高橋 広城 講師 原 賢康

一般外科診療

虫垂炎に対する虫垂切除、鼠径ヘルニア(脱腸)に対する修復術とも、積極的に腹腔鏡下手術を行っています。



国際貢献～海外での手術指導～

我々の腹腔鏡下手術技術を提供して欲しいという依頼を受け、日本からの国際貢献活動の一環として、ベトナムとフィリピンでの手術指導を行いました。これらの活動はどちらも現地で大変歓迎され、また患者さんにも病院スタッフにも非常に感謝されました。今後もこのような活動は継続していきたいと考えております。

ベトナム

ベトナムには日本の他施設の医師と竹山教授が指導に行き、現地の外科医とともに実際に手術を行いました。(平成25年7月)



ハノイ市にて

フィリピン

フィリピンには、竹山教授を中心とした医師4名・看護師1名・臨床工学技士1名からなる名市大外科手術チームを2週間ほど派遣し、毎日たくさん手術を現地の外科医と一緒に行うことで、直接日本の外科医の技術を伝えてきました。滞在中に様々な消化器外科手術に関するビデオ講演会も行ったところ、この講演会の聴講や手術見学も含めて、近隣施設からも多数の医師が参加していました。(平成26年3月)



ケソン市総合病院での手術指導



ケソン市庁舎に招かれて



当院にて(左:消化器外科医局 右:手術室)

その後、フィリピンからは1週間ほど当院手術室への見学・研修にも来ています。現地での彼らの活躍を願っています。

形成外科の設置について

平成27年3月より、新たな診療科として「形成外科」を設置します。形成外科は身体の表面全般を取り扱う診療科です。身体の「機能」の改善だけでなく、「外観」を改善することで患者さんのQOLを向上する治療を行うことが診療科の特色です。一口に「外観」と言いますが、外観を損なう理由は様々あります。例えば先天的な理由(漏斗胸等)、悪性腫瘍の治療(乳房の切除)あるいは事故(顔面の骨折等)などが挙げられます。これらにより生じた身体の一部の欠損や変形などは、身体の機能に影響を与えるだけでなく、患者さんの気持ちにもマイナスの影響を与えることが少なくありません。

このような患者さんに対して手術等の方法により、機能改善とともに可能な限り正常で美しい状態に回復させます。治療により患者さんの気持ちが前向きとなり社会生活へ復帰いただくことができるよう、患者さんと十分に話し合い、そのひとのための医療を提供してまいります。

外来のご案内

月曜日・火曜日・金曜日



詳しい診療担当医等は
当院ホームページ
でご確認ください。

形成外科

不育・不妊センターのご紹介

「不育症」をご存知でしょうか？不妊症は聞いたことがあるけれど不育症はご存知ない方が多いと思います。不育症は、「妊娠はするけれど流産・死産を繰り返して生児を得られない場合」をいいます。不育症は治療・研究を行っている医療機関が少なく、そのことが広く一般に認識されない原因の一つとなっています。当院では、「不育症」の研究・治療では30年以上にわたる実績があり、全国的に見ても他に比肩する医療機関はないと自負しております。

また不妊症は「妊娠を試みて12ヶ月以上にわたって妊娠に至らない場合」に診断されますが、正確に理解されていない事も多いようです。

出産を願う一人でも多くの人に、正しく病気を理解いただき適切な治療に繋がっていただけるよう、当院では「不育・不妊センター」を設置し、不育症の診断・治療や男性不妊症、着床前診断といった高度な医療を行っています。心のケアも含めて、皆さまのサポートに努めてまいります。



不育・不妊センター

名古屋市大病院

ホームページの検索方法の案内「名古屋市大病院」で検索

検索

クリック

<http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>



このQRコードを
ケータイで読み
とると簡単にホーム
ページが見られます。

名古屋市大病院さくらほっとNEWSへのご意見・ご感想をお寄せください。E-mailは hotnews@med.nagoya-cu.ac.jp まで！